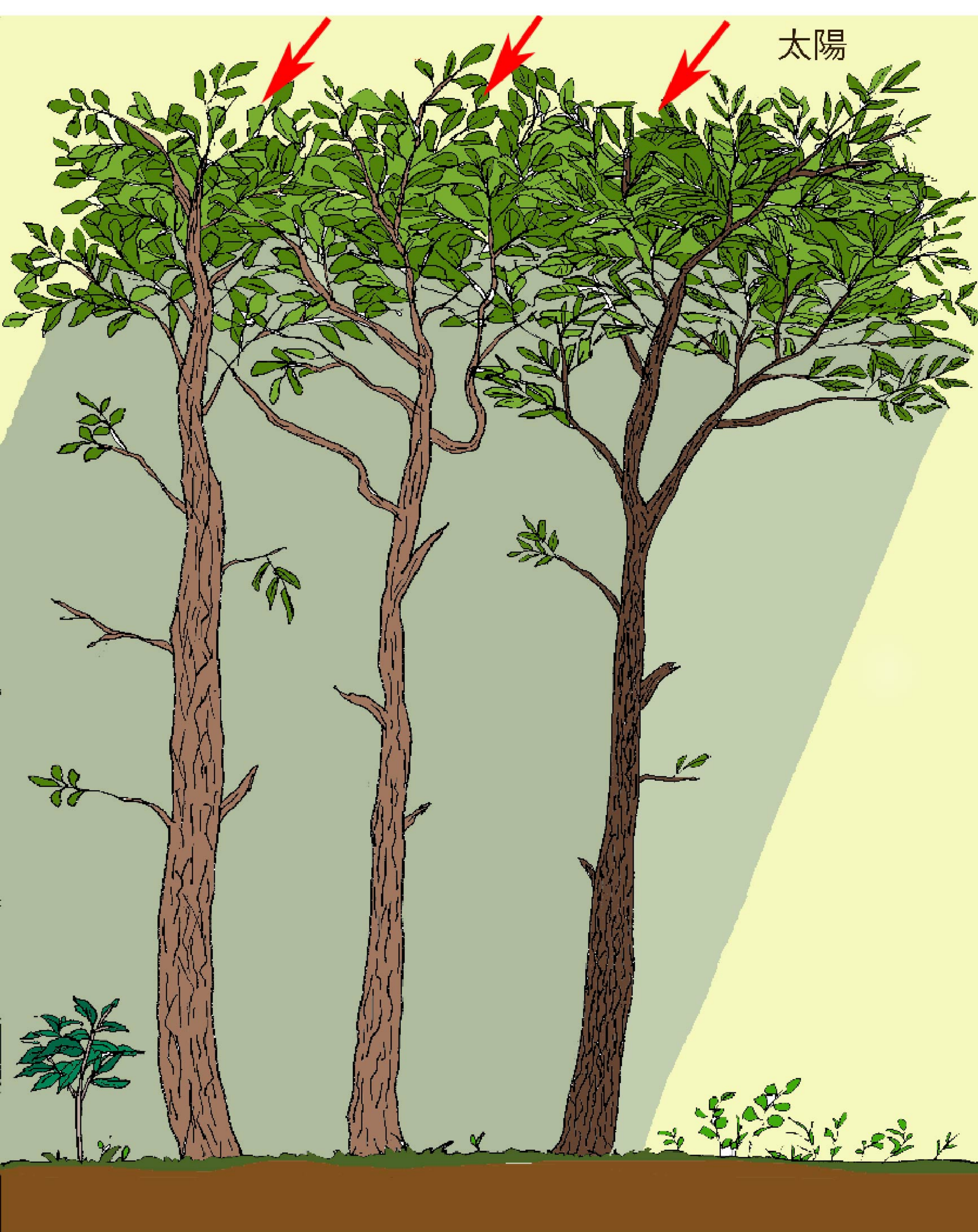


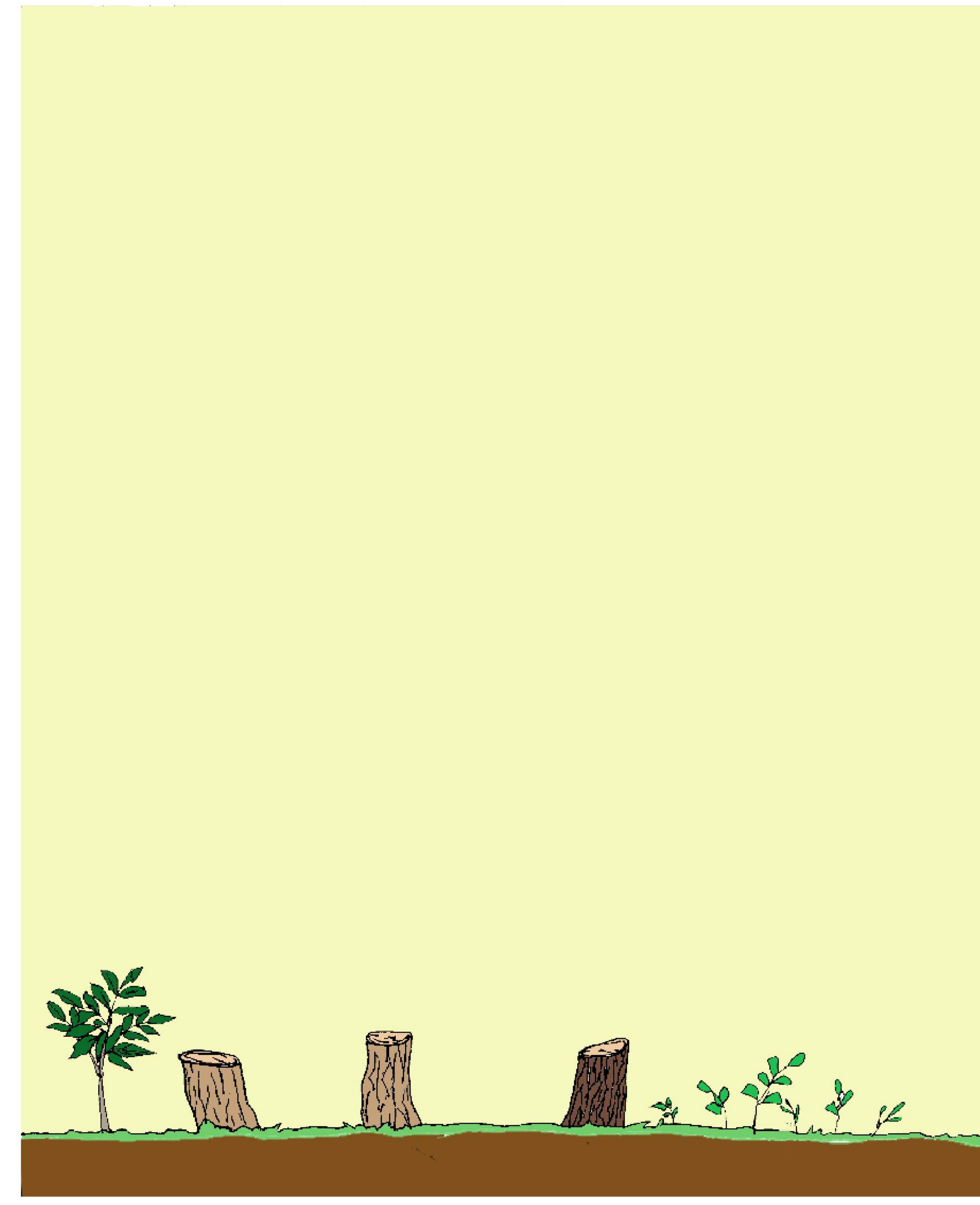
科学館の雑木林は、新しい林に生まれ変わります！

科学館の東側の駐車場建設に合わせ、科学館の雑木林の現状を見直し、「地域の緑地として」、「環境の学習の場として」あるべき姿を目指して、新たな林を育てるプロジェクトを始動させます。



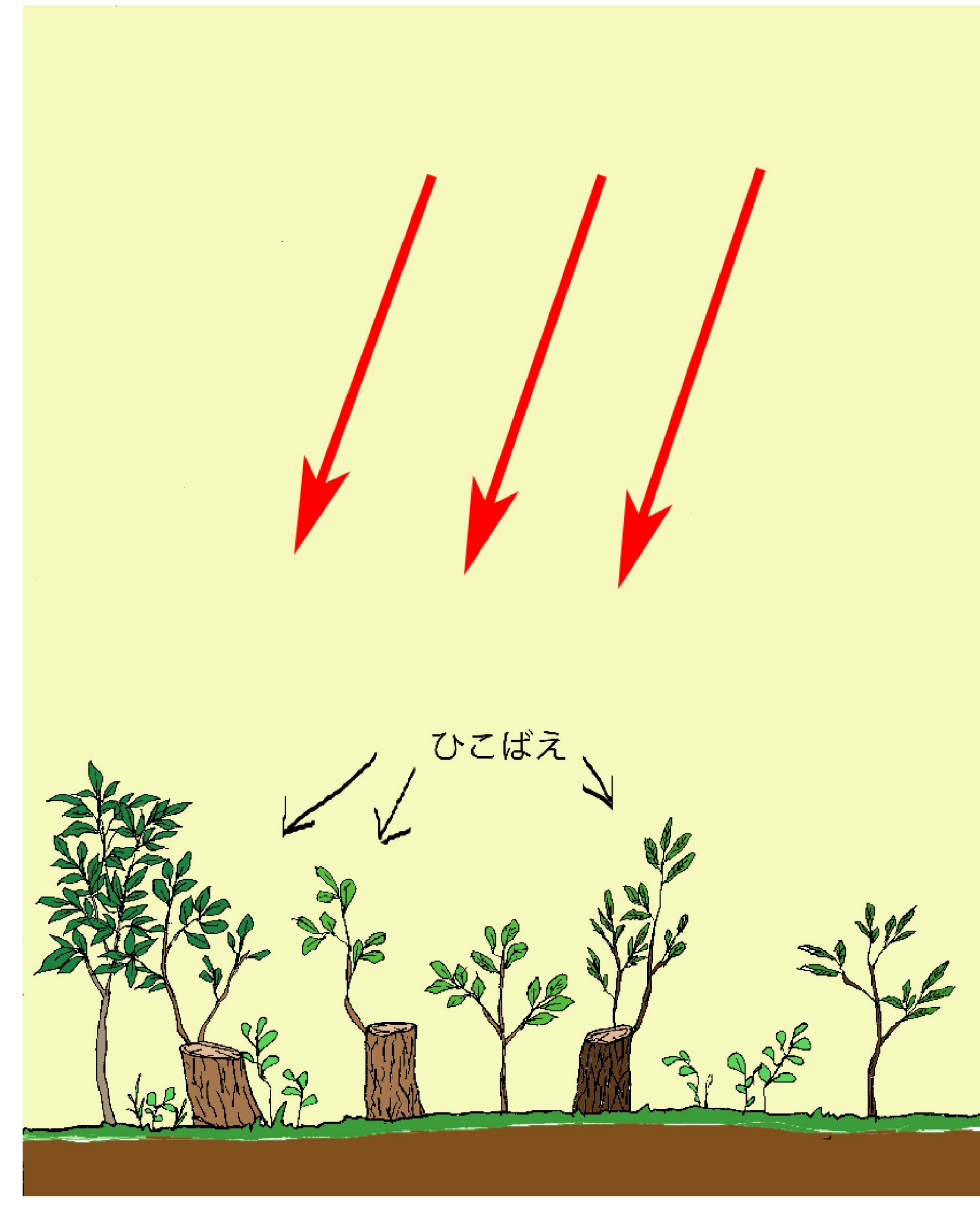
現在

高くなりすぎたコナラやクヌギが日光をさえぎり、地面まで光が届かなくなっています。このままでは日光を好む草木や若木が育ちません。また、伸びすぎた木は重心が高く不安定なため、台風や強風による枯枝の落下や、倒木の危険が増しています。



1～2年目 草地の環境

まず、高木を伐採します。倒木等の危険がなくなるだけでなく、日当たりがよくなることで様々な植物の芽生えが期待できます。現状の土を大切に残し、もともとこの林に生きていた地面の生きもの（虫や菌類）や、土の中の種子、地下茎などを保護します。



3～6年目 芽吹き・若木の成長

明るくなった地面から、今まで地中に眠っていた種や、鳥や虫・風が運んでくる種の芽が出て、さまざまな草や木が現れます。状態がよければ、切り株から萌芽（ほうがひこばえ）が生えてくるかもしれません。同時に、元々この林にあったコナラやクヌギのどんぐりから育てた苗木も植えていきます。



7～10年目 中低木林の誕生

さまざまな植物が芽生え、成長していくことで、環境に変化が生まれます。植物の種類が増えると、その葉や蜜（みつ）を食べる昆虫や鳥たちが集まります。また落ち葉や朽木（くちき）には虫や菌類がすみつきます。多様な生きもの同士がつながりあい、刻々と変化する環境になっていきます。



10年目以降 明るい林の更新

芽吹きから10～15年経ったら、林の木を定期的に伐採します。若木が育ちやすい明るい林が保たれ、健康な木で構成された林になります。伐採は林をいくつかの区画に分け、時期をずらして行います。高さの違う木・林の縁・地面の草むらなどの様々な環境ができ、多様な生きものが集まる場所となります。